

平成 28 年度 学校評価実施報告書

県立藤沢工科高等学校

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の社会的・職業的に自立する力を育成するための教育課程の編成に取り組む。</p> <p>②全教科で生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力の向上を図る授業改善を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教育課程の編成に伴い、教務規程の見直しを行う。 ・生徒が専門スキルや各種検定、資格取得に取り組むよう推進する。 ・生徒の基礎学力を定着させるために幅広い学習希望の提供を行う。 ・言語活動を各学校の学習活動の中でどのように展開させるのかを意識した授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業・進級にかかわる単位の履修・修得条件や時間割編成等の見直しを行う。 ・生徒が各種検定、資格取得に取り組むよう指導し、スキルアップや資格取得率、合格率向上に向けた体制づくりに取り組む。 ・生徒の幅広い学習希望に応えるため、高大連携事業を推奨し、より多くの体験的・経験的な学習活動に取り組む。 ・授業の意識改革、積極的な公開授業や授業見学のきっかけづくりとして、期間を設け、授業見学を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの課題等も考慮し、今年度中に作成できたか。 ・計算技術検定や情報技術検定など合格率が昨年度より向上したか。 ・生徒が高大連携などを活用した講義や講演などへの参加が昨年度より増加したか。 ・実施期間内に授業見学を行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務規程の変更を検討中である。 ・計算技術検定(前期)4級では、1年生の合格率は77.4%だった。計算技術検定(後期)3級においては58.8%だった。昨年より28%上昇した。情報技術検定3級では合格率が28.6%と昨年度より4%下降した。 ・湘南工科大学(2年生対象)へ114名(生産系・情報系・デザイン系)の生徒が参加予定。昨年度より増加した。 ・年間では計189時間の授業見学を実施した。このことで授業を客観的にみることができ、今後の教材研究に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教育課程の編成に伴い教務規程の変更を検討する際に、職員の見解が分かれたため、今後共通理解を深める必要がある。 ・授業時間の確保にむけて、職員の協力を仰ぎながらより一層の工夫が必要である。 ・各種検定、資格取得については、今年度以上に合格率向上をめざした体制づくりに取り組むたい。 ・毎年、年度末に実施しているので、日程調整が難しい。学校行事との検討が必要である。 ・授業の同時展開などにより見学科目が偏ってしまう。今年度は期間を設けたが日頃から積極的に授業見学を行い、授業改善に励むことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに基づき、授業見学をしてはどうか。 ・アンケートにより、生徒の期待していることは何かを把握するとよい。 ・新たな教育課程は、現在、完成しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務規程について議論を重ね、年度内に作成することができた。 ・2年間は新旧2つの教務規程で運用することになるが事故防止に努める。 ・資格取得をさらに推奨し合格率向上を目指すたい。 ・湘南工科大学と連携を図り進路実現に向け継続できるよう努める。 ・組織的な授業改善についてはこれまでの取り組みより後退した。やらされている感があり、積極的な取り組みが足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧どちらの規程に該当するのかが手順等の注意喚起をし、成績等に係る数字等のチェックを厳重に行う。 ・資格取得に挑戦できる環境づくりを検討したい。 ・大学側と日程調整を行い毎年実施する方向で検討したい。 ・意識、意欲の問題。授業に何を求めるか?評価のあり方とも関係する。
2 生徒指導・ 支援	<p>①規範意識を身に付けさせ、社会から期待される主体的な行動力をもった生徒を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりに応じた学習支援と教育相談体制を充実させる。</p> <p>③生徒会活動を活性化させ、自主的、主体的な部活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路を見据え、挨拶、身嗜み等基本的な生活習慣を身につけさせ、自律性のある人材の育成を行う。 ・すべての生徒が学校生活を健康で安心して送れるようにする。 ・生徒が行事や部活動に主体的に取り組むようにするとともに、リーダーを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導や頭髪服装検査等を通じ、職員が一体となり、常日頃からきめ細かい指導を心がけ、社会性を身につけさせる。 ・発達障害や生徒の抱える課題への理解を深めるため、研修会を実施する。 ・教育相談体制の充実を図るための事例検討会を実施する。 ・生徒会行事や部活動の活性化のための調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、身嗜み等の基本的な生活習慣が、身についたか。 ・生徒の抱える様々な課題について理解を深めることができたか。 ・SCやSSWとの連携(連絡、相談)が有効に働いたか。 ・生徒会行事、部活動への生徒の参加数や活動意識が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導の件数は、昨年の46件から22件と大幅に減少した。反面、特別指導の対象人数は、54人から63人へと、増えている。 ・頭髪服装などの身だしなみ指導については、多くの生徒が校則を守っている。 ・教育相談研修会を行い、発達障害を抱える生徒の理解を深めた。 ・学期ごとにケース会議を開き、生徒の実情にあった方法で支援した。 ・スクールカウンセラーと連携した支援を行った。 ・生徒会役員が自主的に体育祭を企画できるよう支援した。部活動加入率は運動部28%、文化部16%である。リーダー研修会に参加させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かい指導の結果、件数が減少しているのにも関わらず、人数が増えている背景には、喫煙・迷惑行為等などが集団化する傾向にある。また、生徒が自分自身の飲酒喫煙などをSNSに載せるケースなども後を絶たず、今後も全生徒を対象に継続的な注意喚起を行っていきたい。 ・頭髪服装などの身だしなみ指導については、今後もきめ細かい継続的な指導が必要である。 ・研修を行うことで、生徒の抱える問題について具体的に学ぶことができ。研修会も本校の現状に合った内容で、職員の知識と理解を深め、生徒支援につなげたい。 ・生徒支援を要する生徒が多くきめ細やかな対応が難しい。 ・体育祭や球技大会は盛り上がりがあった。藤工祭(文化祭)では、今一歩である。生徒の参加しやすい企画を盛り込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究発表会」等で、生徒が話を聞く態度を指導する必要がある。 ・学校を良い方向に変えるには、少しずつ、一斉に変える必要がある。 ・SNSに関わる問題行動への対処は学校だけでは難しい。 ・アクティブラーニングを実施すると教育効果が上り、先生と生徒との関係も良くなる。 ・様々な観点から携帯電話は校内に持ち込み禁止とする対応を考えた必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に対して、きめ細かい指導が行き届いた成果が出たと思われる。反面、数多くの問題を抱えた生徒が増え、しかも集団化する傾向があるので、生徒一人ひとりの普段の生活状況をさらにきめ細かく把握し、問題行動を未然に防ぐよう努める。 ・服装指導は成果が上がっているため、引き続き正門等の立ち番指導を続ける。 ・遅刻指導については効果的な方法はないので、地道な指導を続ける ・SCやSSWの活用や外部機関との連携をより一層推進する。 ・生徒の企画能力を高めるよう支援する。 ・部活動の活性化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究発表会」の実施方法を検討していく。 ・来年度については、「SNS講話」として、外部講師(慶応大学教授)を招き実施する予定である。 ・各学年に教育相談コーディネータを配置するとともに、月に一度コーディネータ会議で、生徒の情報交換を行う。 ・1年生に対しては2学期に部活動の入部機会を設ける。

3	進路指導・支援	<p>①LHRや総合ガイダンスの年間計画を見直し、職業教育・進路指導を充実する。</p> <p>②生徒一人ひとりに応じた進路指導体制を充実させるとともに、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<p>・生徒が「生涯にわたる自分づくり」を主体的にできるよう、総合ガイダンスや進路説明会等を通して支援をする。</p> <p>・就業体験や現場実習に参加する生徒を増やし、体験報告会でプレゼンテーション能力を高める支援に取り組む。</p> <p>・進路のミスマッチを無くすため生徒や保護者との連携を深める。</p>	<p>・「卒業生に学ぶ会」や「職業理解ガイダンス」を通して自分が進む系や進路への理解を深める。</p> <p>・進路ガイダンスや地元企業の説明会を行ったり、クレペリンやSPI3模試などを実施して、生徒が自らの進路について考えられるよう支援する。</p> <p>・学年職員と連携し生徒の状況把握と書類準備等で個別指導を行う。</p> <p>・12月に進路説明会、2月に高校内企業説明会を実施する。</p>	<p>・各種ガイダンスを通じて生徒が進路決定出来たか。</p> <p>・就業体験への参加生徒が増加したか。</p> <p>・生徒が体験報告会でプレゼンテーション能力を高められたか。</p> <p>・進路のミスマッチを防ぐ事が出来たか。</p>	<p>・就職内定率を12月時点で100%を達成した。</p> <p>・12月に進路説明会（6社、17校）を、3月に高校内企業説明会（9社）を実施した。</p> <p>・2年のインターンシップの参加者は、昨年度よりやや減少した。</p> <p>・インターンシップの参加者は、昨年度よりも若干増加した。湘南鎌倉地区は、抽選なので増減があるが、各系でのインターンシップの数が減少した。</p> <p>記録の冊子作り、発表会に向けてのプレゼンテーションの準備も現在行っている。</p>	<p>・地域や産業界と連携したキャリア教育により、生徒の職業観・勤労観の育成をはかることができた。卒業までにより良い進路選択ができるような継続的な指導が必要である。</p> <p>・インターンシップや職場体験の参加生徒に対して、担援・指導を行った。</p> <p>・インターンシップの組織的な取り組みとして、今後も体制を維持するために職員の理解と全職員の協力体制が不可欠である。今後も校内での発表会を実施したい。</p>	<p>・コミュニケーション能力が低下しているのは、携帯電話使用の影響ではないかと思う。</p> <p>・自分の世界に入ってしまう、目標をつかみきれない。学校で、きっかけを与え、興味を持たせていただきたい。</p> <p>・インターンシップや体験学習の必要性を感じる。</p> <p>・子どもに要求しすぎず、大人が声掛けをして教えていく時代へとってきている。</p>	<p>・明確な目的を持たない進学が増えている。</p> <p>・就職希望の生徒についても職業観をさらに養えるよう指導したい。</p> <p>・系によりインターンシップの取り組みにばらつきがある。</p>	<p>・機会あるたびに生徒の目的意識を向上できるよう指導する。</p> <p>・2年次のインターンシップは必修1単位分に加える位の指導が必要である。（実際には必修にはできないが）</p>
4	地域等との協働	<p>①工科高校の特長を活かした小、中学校への学習支援と家庭・地域との連携により、生徒に学びの大切さを理解させるとともに社会性を高める。</p> <p>②地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、地域に貢献する。</p>	<p>・本校の教育力を地域や小中学校へ伝え、生徒主体の学校広報活動を充実させる。</p> <p>・近隣の学校や地域との連携を深めるため、工科高校の特長を生かした地域貢献活動に全校で取り組む。</p>	<p>・ふじさわ産業フェスタやイルミネーション湘南台など地域イベントへ積極的に参加し地域連携に取り組む。</p> <p>・わくわく体験教室や小学生との交流事業の充実を図る。</p>	<p>・地域イベントへ積極的に参加し、生徒主体で工科高校の教育力を地域に伝え、学校広報活動ができたか。</p> <p>・各行事で本校生徒を主体的に参加させ、前年度比10%以上の増加になったか。</p> <p>・地域と交流する機会を通して生徒の社会性を育むことができたか。</p>	<p>・毎年、地域イベントへ積極的に参加し地域貢献や学校広報活動ができた。新規事業としてロボットセミナー（藤沢市）と連携をした。</p> <p>・8月にわくわく体験教室が実施され、参加者は92名であり、昨年度より数が減少した。高校生が中心となった、主体的な活動ができた。</p> <p>・11月に小学生との交流事業が開催され、六会小6年生205名が参加し、ものづくり体験などの講座を実施した。</p>	<p>・参加生徒を募るタイミングや年間学校行事予定との日程調整が困難であった。今後も各地域イベントへ積極的に参加し学校広報活動に取り組むたい。</p> <p>・アンケート結果では、次年度の体験教室での参について、80%以上の小・中学生が参加したいという回答があり講座の内容は満足できるものであった。自由記載欄には、本校生徒の主体的な活動を称賛する記述も多数あった。施設、人員、予算に限りがあり、参加者が希望する体験教室を満たすことができなかった。来年度以降は、体験教室の定員の拡大も含め、参加者希望者が希望の体験教室に参加できるよう改善したい。</p> <p>・110名の高校生が主体的に活動し、各講座での指導を通じ、社会性が育めた。次年度以降は、より多くの高校生が積極的に参加できるよう交流事業の計画をしていきたい。</p>	<p>・駅地下へ、ギャラリーを作ったので、生徒の作品を展示してはどうか。</p> <p>・学びの場所を外へ設けてはどうか。</p> <p>・資格を持ち、しっかりと学習していくことが大切である。</p> <p>・遊び心、魅力を発信できればよい。</p> <p>・遊びから入ることも必要である。</p> <p>・高校生が講師役となり、子供たちにもものづくりの楽しさを教えることは、自らの学びの質を高めることのできる大変により機会となっている。</p> <p>・小学生との交流事業では多くの参加者に対し丁寧な対応をしてもらい、参加者・保護者は大変感謝している。</p>	<p>・新規事業として参加したロボットセミナー（藤沢市）は好評であった。</p> <p>・今年度も引き続き地域イベントへ参加できた。</p> <p>・年々参加希望者数が増え、実施講座数が足りない状況になっている。（小学生）中学生は逆に参加者が少なく、追加募集をしている状況である。</p>	<p>・地域イベントの開催日程や準備と学校行事との調整を検討したい。</p> <p>・実施時期、解説講座数、内容の検討をする。</p> <p>・小中学生以外の地域の人々への対応を検討する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①全職員が学校運営上の課題に迅速に対応できる体制づくりを行う。</p> <p>②地域、保護者から信頼された学校づくりを実践する。</p> <p>③生徒の防災意識を高める取り組みを実践する。</p>	<p>・防災訓練の内容を充実させ、生徒の防災意識を高める。</p> <p>・積極的に社会参加する能力や態度を育成するため、家庭・地域と協働した教育を実践する。</p>	<p>・防災マニュアルを活用し、防災訓練を2回、現実に即した内容で実施する。</p> <p>・職員及び環境委員会生徒を中心に図上（DIG）訓練を実施する。</p> <p>・HP等を活用した広報活動や情報提供を行う。</p>	<p>・生徒の防災意識を高めることができたか。</p> <p>・地域、保護者の本校教育活動に対する理解と信頼が向上したか。</p>	<p>・授業時間の充実を視野に入れ、防災訓練を2回実施し、生徒に対する安全指導の深化を図った。2回目には、防災備蓄食料の内容と保管場所を伝えた。</p> <p>・3学期通学路清掃の際に図上（DIG）訓練を実施した。</p> <p>・HPの総アクセス数は43334回であった。月2回程度更新した。学校説明会にて実施した授業公開では参加者から多くの好評をいただいた。</p>	<p>・地域と連携した防災訓練ができるよう企画立案していきたい。</p> <p>・災害図上（DIG）訓練を多くの生徒が体験できるように計画を立てる必要がある。</p> <p>・HPの掲載（情報提供）方法を職員に周知徹底する必要がある。方法は通知したが、認識してもらえていない状況がある。</p>	<p>・地域の防災訓練では、プール水をろ過して利用する、ダンボールでベットを作るなどの体験をしているので、高校生も参加してはどうか。</p> <p>・防災ベンチについては、各地区への設置を提案してはどうか。</p>	<p>・プール水の濾過についての機器の点検及び講習について、職員のみに実施しているが、生徒にも確認させるとよい。</p> <p>・災害図上（DIG）訓練の実施方法を検討する必要がある。</p> <p>・HP更新の頻度が増え、担当書の負担が増加している。</p>	<p>・生徒の防災意識を高める工夫が必要である。</p> <p>・ボランティア部や生徒会生徒と協力し、地域の防災訓練に参加し、参考となった点を本校の訓練に取り入れていきたい。</p> <p>・六会地区防災マップを活用し、災害図上（DIG）訓練を実施する。</p> <p>・更新方法のマニュアルを作成し、各グループでの更新を可能にする。</p>